

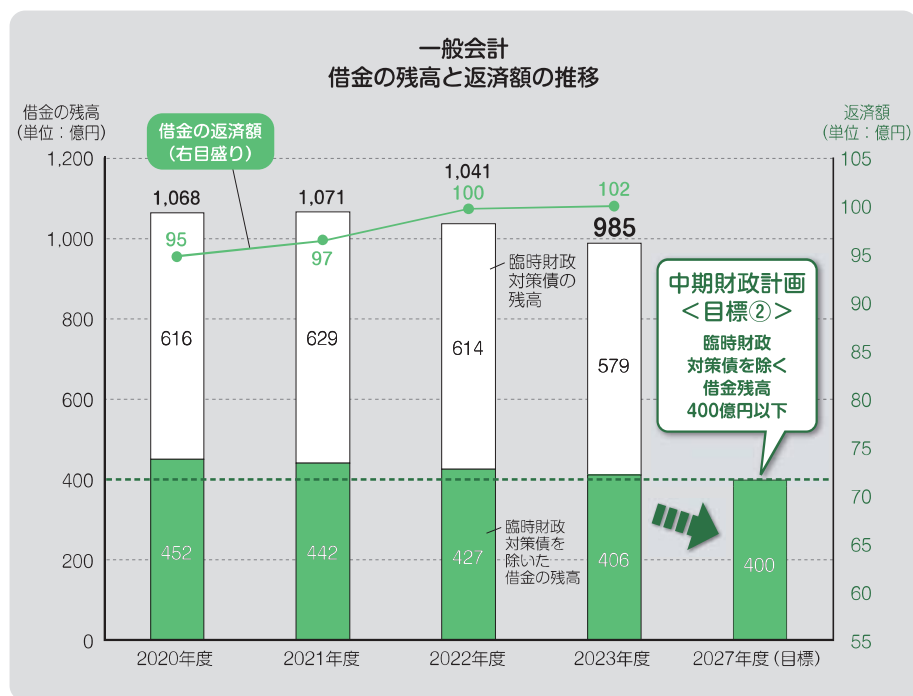
## いちのみや 市債(借金)

学校や道路、大型施設の整備には多くの費用が必要となるため、一宮市では借金をして資金を調達しています。これを「市債」といいます。整備された施設は長い間利用されるものなので、借金である市債を長い期間(最長30年)で返済することで、将来の世代まで平等に負担することにつながります。

下の棒グラフは一般会計の借金の残高です。緑色の棒グラフは、臨時財政対策債(用語解説③)を除いた借金の残高を示しています。2018年度以降、減少に転じており、2023年度は2022年度から21億円減少しました。

折れ線グラフは、借金の返済額で、元金と利子の総額です。近年は、借入期間が比較的短い10年の借金の割合が増加していることから、各年度の返済額は増加しています。当面はこの傾向が続くことが見込まれますので、引き続き計画的に返済していきます。

臨時財政対策債を除いた借金の2023年度残高は406億円ですが、中期財政計画(P. 8参照)のもと、2027年度末に400億円以下になるよう取り組みを進めます。



### 毎年の収入(市税・地方交付税・使用料など)に対する借金の残高

$$\text{借金の残高} \div \text{2023年度経常収入} = \mathbf{0.9\text{年}} \quad \left( \begin{array}{l} \text{2022年度} \\ \text{1.0年分} \end{array} \right)$$

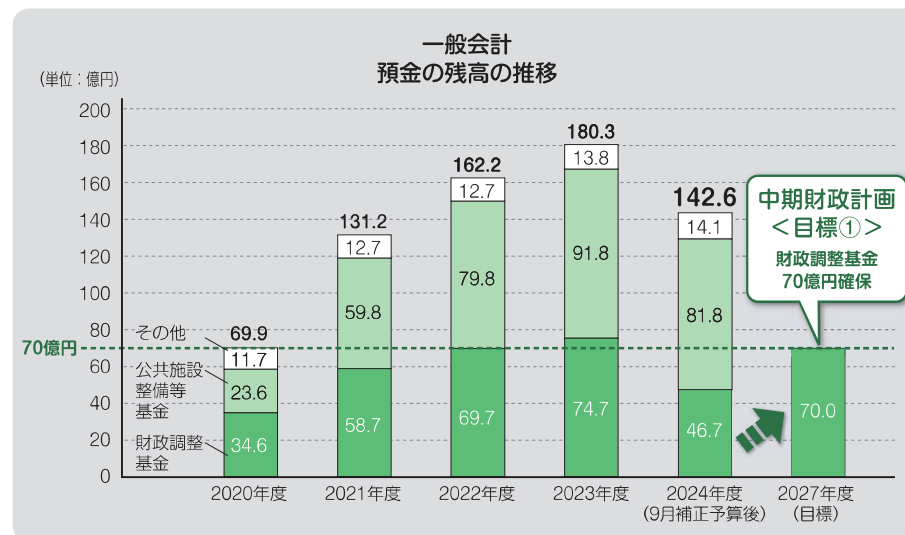
### 毎年の支出(人件費・維持補修費・委託料など)に占める借金の返済額の割合

$$\text{借金の返済額} \div \text{2023年度経常支出} = \mathbf{9.8\%} \quad \left( \begin{array}{l} \text{2022年度} \\ \text{9.7\%} \end{array} \right)$$

## いちのみや 基金(預金)

一宮市では、特定の目的のために預金を積み立てたり引き出したりしています。これを「基金」といいます。下のグラフは一般会計の預金の残高です。公共施設整備等基金は、古くなった公共施設の建替え・改修に備えるもので、2023年度においては12億円を積み立て、91.8億円となりました。

また、収入の不足を補ったり、災害など不測の事態に備える財政調整基金は、2024年度当初予算において、財源不足を補うため40億円を取り崩し、残高が落ち込んでいるものの、2024年9月補正予算で12億円の積み立てを予算計上しました。2024年度以降は、中期財政計画の目標(2027年度末に残高70億円)の達成に向けて取り組んでいきます。



### 毎月の収入(市税・地方交付税・使用料など)に対する預金の残高

$$\text{預金の残高} \div (\text{2023年度経常収入} \div 12\text{か月}) = \mathbf{2.0\text{か月分}} \quad \left( \begin{array}{l} \text{2022年度} \\ \text{1.8か月分} \end{array} \right)$$

## 用語解説

### ①地方交付税

すべての地方公共団体が一定の行政サービス水準を維持できる財源を保障するために国税を一定の基準によって再配分する制度です。

### ②中核市

地方自治法により定められた、政令で指定する人口20万人以上の都市です。一宮市は、地域の実情に合ったより質の高い行政サービスを提供するため、2021年度に施行時特例市から中核市へ移行し、愛知県から保健所業務などの権限移譲を受けました。愛知県内では、豊田市・豊橋市・岡崎市に次いで4番目、尾張地方では初の中核市です。

### ③臨時財政対策債

本来国から交付されるべき地方交付税の不足分を賄う市債です。元金と利子の返済額全てが後年度の地方交付税で手当てされます。